

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

第11期前期 開講講座

5月8日(土) 午後1時～  
壊憲反対の統一戦線は  
どうあるべきか

—— 5・18 国民投票法「自然施行」ムードを斬る  
＜パネルディスカッション＞

武井昭夫（評論家）／山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）  
土松克典（韓国労働運動研究）

4. 社会主義こそ真の代案だ

2009年度後期を引き継ぐ本テーマは、「武井昭夫状況論集」Ⅲ「社会主義の危機は人類の危機」と文献集「ギリシャ共産党は主張する」をテキストに、今期、20世紀現代史の核心をなすソ連「崩壊」の総括に足を踏み入れる。それは、決して「過去」の問題ではなく、すぐれて「現在」の問題なのだ。この課題の探求は労働者階級が切り開くべき近未来に通じている。

- ① 6月5日(土) **ペレストロイカ——わが対応の記録**  
「状況論集」著者＝武井昭夫さんを囲んでの討論
- ② 6月12日(土) **ギリシャ共産党「社会主義に関する決議」を読む**  
講師＝山下勇男（社会主義理論研究）  
ゲスト＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
- ③ 8月1日(日) **＜夏季セミナー＞**  
**福祉国家論、社会的連帯論批判**  
——ギリシャのゼネストから学ぶもの  
講師＝新田 進（国際労働運動研究）
- ④ 8月25日(水) **ラテンアメリカ・カリブ海諸国人民の闘い**  
——ハイチ地震への米・日の対応を中心に  
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）

5. メディアを読み解く視点

沖縄普天間基地撤去問題を「日米同盟ありき」から報道する日本のTV、新聞は、本来メディアが果たすべき役割を放棄し、政府広報機関化している。この現実を目に向け、労働者・市民が何をなすべきかを考える講座としたい。そのために、経済報道、政治報道そして人権報道の視点からその道に強い講師に報告をもらい、受講生とともに討論する講座。

- ① 6月2日(水) **リーマンショック以後の経済報道と世界恐慌の現実**  
講師＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）
- ② 7月17日(土) **連立政権と情報公開・記者クラブ**  
講師＝浅野健一（同志社大学教員）
- ③ 9月29日(水) **再審・冤罪を通して考える事件・裁判報道**  
講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）

6. 日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）  
初めに言葉ありき。しかして次に感動ありき。近代・現代の日本文学のなかから、秀作短編小説を選びめぐり、毎回一編ずつ読んでじっくりと語り合います。読み、感動し、考え、言葉にして、ともに文学への扉をひらく。そこから世界や現実への新たな視野もひらかれるはずです。  
今期取り上げるのは次の四編。どなたも奮ってご参加ください（各回とも午後7時から）。

- ① 5月19日(水) **宇野千代作『おはん』**（新潮文庫）  
この一編の完成に十年の歳月をかけ、のちに昭和文学の古典的名作とうたわれるに至った作者の代表作。
- ② 6月16日(水) **山本周五郎作『大炊介始末』**（新潮文庫）  
乱暴狼藉の限りを尽くし、父と藩の期待を裏切り続けた主人公だったが、彼には人と言えぬ苦しみがあった。絶望しながら生きる人間の苦悩を描いた力作。
- ③ 7月14日(水) **葉山嘉樹作『淫売婦』**  
（「セメント樽の中の手紙」所収、角川文庫）

裸形のまま横たわる一人の娼婦。彼女を斡旋する男たち。彼らの奇妙な連帯感や、貧窮のどん底にあえぐ人々への共感を込めて描く。これが書かれたとき、作者は思想犯として獄中にあった。

- ④ 9月15日(水) **深沢七郎作『楢山節考』**（新潮文庫）  
信州に伝わる陰惨な棄老伝説を踏まえ、人間のぎりぎりの姿をとおして現われる悲痛な美しさを描いた作者の代表作。

7. HOWS文化講座

- ① 5月23日(日) **美術館訪問**  
**「ロシア構成主義のまなざし」**(東京都庭園美術館)を観て考える  
講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）
- ② 8月21日(土) (仮題) **時代を呼吸するうた I**  
——『キューバ音楽』(八木啓代／吉田憲司著・青土社刊)を聞く  
講師＝八木啓代（ミュージシャン、エッセイスト）
- ③ 8月28日(土) (仮題) **時代を呼吸するうた II**  
——ラテンアメリカの新しいうた  
講師＝八木啓代（ミュージシャン、エッセイスト）  
※「時代を呼吸するうた」は引き続き、後期に2回の講座を計画中。
- ④ 9月18日(土) **抵抗の美術家たち**  
——近世在野のこころ意気II  
講師＝日夏露彦（美術評論家）  
Iにつづき、伊藤若冲、曾我蕭白、歌麿、北斎など創造の胆力ほとばしる美術家群を映像とともに紹介。

8. この人にきく

- ① 5月12日(水) **日本社会で繰り返される排外主義扇動**  
——無償化制度からの朝鮮高校排除の意味  
講師＝金 東 鶴（在日本朝鮮人人権協会）
- ② 5月26日(水) **ハレスチナの闘いはいま**  
——『ガザ、われわれは今行くぞ』(45分) 上映予定  
講師＝松田政男（映画評論家）
- ③ 7月31日(土) **＜夏季セミナー＞**  
**地獄への道に抗う批評の論理**  
——『武井昭夫状況論集』をめぐる  
対談＝鎌田哲哉（『重力』編集会議）／武井昭夫（著者・評論家）
- ④ 9月4日(土) **続・拉致問題で歪む日本の民主主義**  
——沖縄に住んで考えたこと  
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
- ⑤ 9月25日(土) **資本主義社会で環境問題は解決できるか**  
——原発を含めて何を課題とすべきかを考える契機とする  
講師＝小林吉吉（元高等学校教員・物理担当、「原子力と人間」(菁柿堂)著者)

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝武井昭夫、山口直孝、松岡慶一  
戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、竹内好の『アジア主義』批判、湯地朝雄『プロレタリア文学運動 その理想と現実』、戸坂潤『世界の一環としての日本』(1937年)、田川建三の吉本隆明批判、尾崎秀実の「東亜協同体論」、「花田清輝vs吉本隆明論争」などを取り上げました。  
2009年度後期の継続として、5月、6月に次の例会が予定されています。奮ってご参加ください。  
●日 時＝2010年5月16日(日)  
テーマ＝花田清輝の集団制作——「首が飛んでも・眉間尺」(魯迅『故事新編』より「鑄劍」の戯曲化)  
報告者＝内村繁人  
●日 時＝2010年6月20日(日)  
テーマ＝花田清輝の批評活動——アンジェイ・ワイダ監督、映画『灰とダイヤモンド』をめぐる花田清輝と武井昭夫の論争  
報告者＝逢坂秀人

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子  
台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものも参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを含めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。  
●これまでの制作・作品には、次のものがあります。  
1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯  
2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して  
3) 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に  
4) 戦争を止めよう！II  
5) いま、私たちの労働現場から II  
6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改悪は誰のため？  
7) 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い  
8) 共闘こそ力！——壊憲を許すな  
9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう  
10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために  
●HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

HOWS講座カレンダー 2010年度前期（4月～9月）

4月24日(土)	プレ企画 「日本国憲法」前文を読む 講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）
5月8日(土)	改憲反対の統一戦線はどうあるべきか パネルディスカッション 武井昭夫（評論家）／山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）／土松克典（韓国労働運動研究）
5月12日(水)	日本社会で繰り返される排外主義扇動 講師＝金 東 鶴（在日本朝鮮人人権協会）
5月15日(土)	国民投票法施行を前に闘いをどうすすめるか パネルディスカッション 村中哲也（航空労組連絡会元副議長）／萩尾健太（弁護士）／新田 進（国際労働運動研究）
5月19日(水)	日本の短編小説を読む 宇野千代作『おはん』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
5月23日(日)	美術館訪問「ロシア構成主義のまなざし」(東京都庭園美術館)を観て考える 講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）
5月26日(水)	ハレスチナの闘いはいま 講師＝松田政男（映画評論家）
6月2日(水)	リーマンショック以後の経済報道と世界恐慌の現実 講師＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）
6月5日(土)	ペレストロイカ——わが対応の記録 ゲスト＝武井昭夫（評論家）
6月9日(水)	最新現地レポート 米軍基地の撤去こそ沖縄県民の意志 講師＝松元 剛（『琉球新報』記者）
6月12日(土)	ギリシャ共産党「社会主義に関する決議」を読む 講師＝山下勇男（社会主義理論研究）／ゲスト＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
6月16日(水)	日本の短編小説を読む 山本周五郎作『大炊介始末』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
6月19日(土)	労働者階級の劣勢を挽回するために 講師＝沢木 勇（労働政策研究）
6月30日(水)	米軍再編の全貌と強化される「日米同盟」 講師＝山崎久隆（たんぼぼ舎）
7月7日(水)	続・「ヤミ専従」問題——職場から反撃する 講師＝木村良二（全農林労働組合分会役員）
7月10日(土)	民主党政権の改憲衝動 講師＝吉沢弘志（埼玉大学教員、パトリオットミサイルはいらない！ 晋志野基地行動実行委員会）
7月14日(水)	日本の短編小説を読む 葉山嘉樹作『淫売婦』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
7月17日(土)	連立政権と情報公開・記者クラブ 講師＝浅野健一（同志社大学教員）
7月24日(土)	国鉄闘争30年の総括にむけて——瓶久勝国鉄闘争共闘会議議長と当事者を変えてパネルディスカッション 7月31日(土) 地獄への道に抗う批評の論理——『武井昭夫状況論集』をめぐる＜夏季セミナー＞ 対談＝鎌田哲哉（『重力』編集会議）／武井昭夫（著者、評論家） 7月31日(土) カメラでとらえた沖縄の闘い——「沖縄・基地案内——未来を見つめ闘う島」(1999年・90分) 上映と討論
8月1日(日)	階級的な見方と階級的闘い方 パネルディスカッション 米丸かさね（ゆうめイト）／土田宏樹（J P 労組）／吉良 寛（本書編集者）
8月1日(日)	福祉国家論、社会的連帯論批判 講師＝新田 進（国際労働運動研究）
8月21日(土)	時代を呼吸するうた I 講師＝八木啓代（ミュージシャン・エッセイスト）
8月25日(水)	ラテンアメリカ・カリブ海諸国人民の闘い 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）
8月28日(土)	時代を呼吸するうた II 講師＝八木啓代（ミュージシャン・エッセイスト）
9月1日(水)	不況下の賃金闘争、正規職と非正規職の連帯 講師＝宮川敏一（京成電鉄労組前書記長）
9月4日(土)	続・拉致問題で歪む日本の民主主義 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
9月11日(土)	人種差別問題を考える——憲法と国際人権法から 講師＝前田 朗（東京造形大学教授）
9月15日(水)	日本の短編小説を読む 深沢七郎作『楢山節考』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
9月18日(土)	抵抗の美術家たち——近世在野のこころ意気II 講師＝日夏露彦（美術評論家）
9月25日(土)	資本主義社会で環境問題は解決できるか 講師＝小林吉吉（元高等学校教員・物理担当、「原子力と人間」(菁柿堂)著者)
9月29日(水)	再審・冤罪を通して考える事件・裁判報道 講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）

1. 壊憲の危機に憲法を学び、活かす

政府は、壊憲手続法（国民投票法）について投票年齢を20歳以上で政令を定め、5月18日に施行する態勢に入っている。にもかかわらず、「政権交代」をうけて商業新聞だけでなく護憲運動の側までが沈黙している。1980年代からの新自由主義の壊憲策動の仕上げが、不気味な静けさで近づいている。壊憲手続法は、壊憲勢力に、極めて有利な手続きを定めている。この施行を許すことは、護憲勢力にとって憲政史における最大の敗北である。壊憲手続法は、廃案にするしかない。にも関わらずそれが全体の運動にならない。なぜ日本労働運動は、闘う方向を見出せないのか。壊憲阻止の統一戦線を志向し、解釈改憲・明文改憲との闘いの方向をともに考える。

- ① 4月24日(土) **＜プレ企画＞**  
**「日本国憲法」前文を読む**  
—— 込められた歴史、理念、そして無念  
講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）
- ② 5月15日(土) **国民投票法施行を前に闘いをどうすすめるか**  
＜パネルディスカッション＞  
村中哲也（航空労組連絡会元副議長）  
萩尾健太（弁護士）  
新田 進（国際労働運動研究）
- ③ 7月10日(土) **民主党政権の改憲衝動**  
—— 鳩山政権の外交政策と安全保障問題  
講師＝吉沢弘志（埼玉大学教員、パトリオットミサイルはいらない！ 晋志野基地行動実行委員会）
- ④ 9月11日(土) **人種差別問題を考える**  
—— 憲法と国際人権法から  
講師＝前田 朗（東京造形大学教授）

2. 60年安保から50年「日米同盟」そして沖縄

「沖縄では安保体制の下に日本国憲法がある」といわれる。1972年の沖縄返還後も米軍基地はそのまま残り、復帰後38年たった今でも、沖縄では平和憲法は最高法規ではない。基地被害を受け、米軍の侵略戦争に加担させられ、有事には標的にされる。米軍駐留の根拠を与える日米安保50年にあたり「日米同盟」を改めて根本的に検証する。

- ① 6月9日(水) **＜最新現地レポート＞**  
**米軍基地の撤去こそ沖縄県民の意志**  
講師＝松元 剛（『琉球新報』記者）
- ② 6月30日(水) **米軍再編の全貌と強化される「日米同盟」**  
講師＝山崎久隆（たんぼぼ舎）
- ③ 7月31日(土) **カメラでとらえた沖縄の闘い＜夏季セミナー＞**  
——「沖縄・基地案内——未来を見つめ闘う島」(1999年・90分)  
上映と討論

3. 労働運動の再生が鍵を握る

かつて、護憲の闘い、反基地の闘い、そこにはいつも労働組合が中心に存在し、市民運動と連携して、全人民的課題を担っていた。日本労働運動の「冬の時代」が叫ばれて久しい。いかにしたら、日本労働運動の階級的再生が成し遂げられるか？ 労働運動における現下のもっとも尖端的テーマを検討しつつ、運動再生の道しるを探る。

- ① 6月19日(土) **労働者階級の劣勢を挽回するために**  
—— 派遣法は「改正」ではなく「撤廃」すべきだ  
講師＝沢木 勇（労働政策研究）  
※非正規で働く仲間からの発言
- ② 7月7日(水) **続・「ヤミ専従」問題**  
—— 職場から反撃する  
講師＝木村良二（全農林労働組合分会役員）
- ③ 7月24日(土) **国鉄闘争30年の総括にむけて**  
二瓶久勝国鉄闘争共闘会議議長と当事者を変えてパネルディスカッション
- ④ 8月1日(日) **＜夏季セミナー＞**  
**＜パネルディスカッション＞**  
**階級的な見方と階級的闘い方**  
——「労働法制改悪の根源を撃つ」(スペース加耶刊)をめぐる  
パネラー＝米丸かさね（ゆうめイト）／土田宏樹（J P 労組）、吉良 寛（本書編集者）
- ⑤ 9月1日(水) **不況下の賃金闘争、正規職と非正規職の連帯**  
—— 広島電鉄労組による契約社員の正社員化ケースを考える  
講師＝宮川敏一（京成電鉄労組前書記長）